

主体的に探究する児童の育成
～共に学び合い、伝え合う国語科の授業づくりを通して～

第3学年 国語科 学習指導案

日時 令和7年9月17日（水） 第5校時
 場所 温知学舎 世田谷区立鳥山小学校
 学級 第3学年2組 26名
 授業者 伊藤 弾

1 小単元名 場面をくらべながら読み、感想を書こう

教材名 「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができます。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。【(1) オ】	<p>① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【C (1) エ】</p> <p>② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。【C (1) オ】</p>	① 文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をまとめようとしている。

4 単元について

(1) 教材について

本教材は、「かげおくり」という遊びを取り上げながら、戦時下の家族の姿を描いた物語である。場面の移り変わりがはつきりとして捉えやすい構成になっており、作品の中で情景や会話が生き生きと表現されていて、児童はちいちゃんに感情移入しながら読み進めることができると考える。特に、二つの「かげおくり」の状況を比べながら読んだり、第5場面の役割を考えたりすることで、戦争の悲惨さを感じたり、平和や家族の大切さを考えたりするきっかけとなる作品である。

指導事項に関わって

「場面を比べながら読むこと」と「感想をもって交流すること」に重点を置いた学習を展開したい。本教材は、第1場面の「かげおくり」と第4場面の「かげおくり」を比べるように描かれている。児童は、二つの「かげおくり」の間の「ちいちゃん」の様子や気持ちの変化を読み取ったり、二つの「かげおくり」の共通点や相違点を確かめたりすることで、物語への感想を深めていく。深まった感想を友達と紹介し合い、それぞれの感じ方に違いがあることに気づかせていきたい。

言語活動に関わって

感想をもつ際には、どう感じたかだけでなく、その理由を叙述や構成など作品の特徴を踏まえて述べられるようにする。また、初めて読んで感じたことと最後に読んで感じたことを比べ、どう違っているかを意識させて、自分自身の読みの深まりを自覚させたい。そうしてもった感想を友達と交流して、似ているところや違うところを見つけていくことで、自分の読みを見直す機会になることが期待できる。

(2) 教材文の分析

場面	出来事				
	5	4	3	2	1
	P27L7～P27L11	P24L3～P27L6	P21L10～P24L2	P14L10～P21L9	P14L1～P18L9
何十年後かの町で、お兄ちゃんやちいちやんぐらいの子どもが、笑い声を上げて遊んでい	家族の声が聞こえてきて、ちいちやんは一人でかけおくりをした。お母さんとお兄ちゃんと花畠で家族と再会する。	ちいちやんは自宅に戻るが、家は焼け落ちてなくなつた。お母さんとお兄ちゃんと帰りを一人で待ち続ける。	空襲があり、ちいちやんはお母さんとお兄ちゃんと逃げる。途中ではぐれてしまい、一人ぼつちになる。	ちいちやんは、かけおくりを知り、かけおくりをお兄ちゃんとも遊ぶようになる。	お父さんの出征の前日、家族そろつてかけおくりをする。お父さんの出征後、ちいちやんはお兄ちゃんとかけおくりをするが、やがて戦争は激しくなつていく。
「ちいちやん」がいいい平和な様子をあえて描き、この場面が楽しく明るいイメージであればあるほど、戦争によつてたくさんの中を失つた「ちいちやん」の無念さが感じられる。平和への願いを強く感じさせる構成となつていてる。	第一場面のかけおくりと比較しながら読むと、家族に会いたい一心でかけおくりをした「ちいちやん」の気持ちがより伝わつてくる。そして戦争が「ちいちやん」から次々に大事なものを奪い取り、ついに「ちいちやん」の命までも奪つてしまつたことが分かる。しかし、「ちいちやん」の立場で読むと家族にやつと会えた喜びも共感できる。客観的に読むか、共感的に読むかで意味が違い、それゆえに深く考えさせられる。	緊迫した第二場面の様子とは打つて変わり、戦争が全てを奪い去つてしまつた後の静けさ、むなしさが町の様子から伝わつてくる。また「ちいちやん」が家族に会いたいと願い信じて待つ姿が繰り返し表現され、読者を切ない気持ちにさせる。	突然襲つてきた空襲警報の恐ろしさ、必死に逃げる人々の様子が、短い文の繰り返しや強い語調の会話文によつて描かれ、その光景が伝わつてくるようになつていて。現在形の文末表現が臨場感を高めている。	・ひとりぼつちになつたちいちやん ・お母ちゃんたちとはぐれたちいちやん ・またひとりぼつちになつたちいちやん	題名から読者が抱く「かけおくり」とはどんな遊びだろうという疑問を、第一場面のお父さんの言葉からはつきりさせることができる。また、家族みんなで手をつないでかけおくりをする幸せを読者にひしと伝えた後に、「お父さん」の出征という悲しい出来事へと展開させている。
・かけおくりをした青い空の下で、たくさんの子どもが遊ぶ公園 ・かけおくりをした場所で、きらきら笑つて遊ぶ子どもたち	・一人で天国へのかけおくり ・お空で家族に会えたちいちやん			・家族と一緒にしたかけおくり ・お父さんと最後のかけおくり ・かけおくりを初めて知つたちいちやん	児童から予想される題名

(3) 児童の実態について

第3学年では、これまでに「春風をたどって」「まいごのかぎ」の教材で物語文の学習をしている。

2つの単元では、「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとめがあることを理解し、語彙を豊かにすること」という指導事項があり、全文シートを活用して、色別のサイドラインを引きながら、登場人物の行動・気持ち・様子に着目して読み取りを行った。

本単元の学習をする前に、各学級で「かけおくり」を実際にを行い、第1時の学習でかけおくりをした経験を思い出し、物語の理解に生かせるようにした。

また、児童は戦争教材を学習することが初めてである。本単元の学習をする前に、低学年で扱われていて、内容が大まかに捉えられることができる『かわいそうなぞう』という戦争についての教材を朝読書で読み聞かせした。「かわいそうなぞう」を活用した目的は、2つある。1つ目は、時代背景を知る手がかりになることである。2つ目は、教科書の「まとめ方のれい」を使い、感想の書き方を経験させることで自分の考えを表現できるようすることである。

本学級の児童は、アンケート調査の結果から「学習に取り組むときに、以前身につけた学び方や調べ方から自分なりによいと思うやり方を選んで学ぶことができますか」という質問に対して、2割の児童が「あまり思わない」「思わない」と回答している。既習事項を生かしてどのように学び、自分に合った学習方法が何かが分からぬ児童が一定数いることが分かった。そのために、本単元では今までに使ったことのあるいくつかのワークシート等を用意し、自分に合ったものを自分で選ばせるようにさせる。また、「振り返りを通して、次回の学習で学びたいことや自分の課題を意識していますか」という質問に対して、学級の2割の児童が「あまり思わない」と回答している。そこで、今回の単元では第2時の学習計画を立てる際の板書を毎授業の始めと終わりに児童に示して、何を学習するか、何を学んだか、次に何を学習するか、さらに何を学習したいかなどを考えさせることに活用できるようにする。

5 めざす児童像との関連

自らの学びを自覚し、すすんで取り組める子

中学年の目指す児童像

「学習を振り返りながら、自分の学びを選べる子」

中学年では、「自らの学びを自覚し、すすんで取り組める子」を達成するためには、児童が主体的に取り組めるような必然性のある課題設定が重要と捉えている。そのために、目標やゴールイメージなどの単元全体の見通しをもたせた上で、初発の感想や疑問をもとに児童と共に問い合わせを設定して、学習を進めるように計画を立てる。また、前単元の既習事項や毎時間の学習の振り返りを活用して児童一人一人が「どう解決するか」を選択したり、「どのように伝えるか」の表現方法を工夫したりして、児童の学び方を選択できるようにし、探究的に学習を進めたりする児童の育成を目指す。そのために、教師側は既習事項を振り返らせたり、学習状況を確かめさせたりして児童に問い合わせ、目標に沿った多様な手立てで学びを支援できるようにしたい。

6 研究の手立て

(1) 主体的に学習するための学習計画の工夫 (10ページ参照)

単元の初めに教科書の「見通しをもとう」を活用し、目標やゴールイメージを示すことで児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、「何を」「どのような方法で解決していくか」を既習した単元から思い出させて、学習計画を児童と共に計画したり、児童の初発の感想を元に課題設定(問い合わせ)をしたりして、単元を通して主体的に探究する児童の育成をねらいとした。学習計画を視覚的に提示したり、授業の初めや終わりに確認したりすることで学習の進行状況や目標を児童自身が把握してその日の学習や次への学習に主体的に取り組めるようにしたい。

(2) 学び方の工夫

多様な学び方を知り、そこから自分に合った学び方を選択できるように二つの手立てを考えた。

①ワークシート等の工夫 (8, 9ページ参照)

課題を解決する際のまとめの手段を以下の4つの中から選べるようにした。

- ・全文シートから必要な場面だけに絞ったワークシート (A)
- ・登場人物や人数、様子など項目ごとにまとめる表 (B)
- ・同じところや違うところを整理するベン図 (C)
- ・思考を整理するためにノートにまとめる (D)

このような学習を積み重ねることで、自分の学習方法の幅を広げて、他教科で活用したり、さらに発展的に工夫したりして取り組むことを期待している。

②「学び方ハンドサイン」の活用（10ページ参照）

自力解決する際の学習形態（①先生と ②友達と ③一人で）を選択できるようにし、『学び方ハンドサイン』として学習に取り入れた。本時の課題を把握した時点で、児童一人一人の課題に対しての難易度、見通しなどに個人差が生まれる。本時のめあてを提示し、「どのように学ぶか（解決するか）」を児童自身が『学び方ハンドサイン』を使って示し、学習形態を選択することで主体的に取り組むことをねらいとしている。また、友達と共に解決することで自分の考えに自信がもてるようになったり、友達に教えることで考えが深まったりして、学び合いを通して自己肯定感や探究心を高めたい。

教師側が、児童の学習状況をみるとたためにも有効であり、その場で授業展開に生かして柔軟に対応しながら授業を進めていくことができると考える。

（3）感想をまとめための工夫（10ページ参照）

本学年は自分の考えをもつことができていても書き方が分からず、表現することに自信のない児童が多い。教科書の「まとめ方のれい」を基本とし、感想の書き方のモデル文を提示した。これを使って、朝読書で読み聞かせをした「かわいそうなぞう」の感想、本単元の初発の感想、本単元のまとめの感想と、繰り返し経験を重ねることで自分の考えを表現できるようにする。また、同じ型で書くことで書き方が分かり、児童の考えの深まりや変容がより実感できると考える。

本単元では、二つのかけおくりの共通点や相違点を見つけて、比べることで詳しく読み取っていく。二つのかけおくりに題名をつけることで、根拠や叙述を基にして、自分の考えを伝えられるようにしたい。他の場面でも、題名をつけることで、場面の理解をし、自分の感想をまとめられるようにしたい。

7 学習指導計画（全10時間）

過程	○ねらい	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★評価規準（方法）
第一次	①物語を読んだ感想から、読み深めたいことを考え、学習のめあてをもつことができる。	○「ちいちゃんのかけおくり」を読んで感想を書く。 ○今までの既習事項を振り返る。	◇感想を書く際に書き方の例を参考にして書くように促す。 ★【思・判・表②】内容をおおまかに捉えて、自分の感想や考えをもっている。（発言・記述） ◇課外授業で、実際にかけおくりを体験させる。 ◇前回までの物語文の学習活動を振り返り、学習の見通しをもたせる。
	②目標に対して学習の見通しをもち、学習課題や学習計画を立て、見通しをもつことができる。	○児童の初発の感想と「問い合わせをもとう」や「もうひょう」を基に、学習課題を考える。 ○学習計画を考える。	★学習課題について考えて見通しをもっている。（発言・行動）
第二次	③二つの場面を読んで登場人物の行動や気持ちを捉え、それらを比べることによって、共通点や相違点を見つけることができる。（本時）	二つの「かけおくり」をくらべて、同じところやちがうところを見つけよう。 ○二つの「かけおくり」の様子を比べながら読み、共通点や相違点をまとめる。 ○二つの「かけおくり」について比べて分かったことを交流する。	◇学習計画を提示する。 ◇共通点や相違点をまとめる方法をいくつか用意して、学習方法を選択させる。 ★二つの場面を比べ、共通点や相違点を大まかに捉えている。（発言・記述） ★【思・判・表①】二つの場面について、登場人物の行動や気持ちを、叙述を基に捉えている。（ワークシート）

第三次	<p>④表現に着目し、場面ごとに登場人物の行動や気持ちの変化について捉えることができる。</p>	<p>「ちいちゃん」の周りで起きた出来事をもとにして「○○ちいちゃん」と題名をつけよう。</p>	<p>○第1場面の出来事や様子を捉える。 ○第2場面の出来事や様子を捉える。</p>	<p>◇気持ちや行動に線を引き、登場人物の気持ちの移り変わりが分かるようする。</p>
	<p>⑤表現に着目して場面ごとに登場人物の行動や気持ちについて捉え、それらをつなげて、周りの様子の変化を考えることができる。</p>	<p>「ちいちゃん」の周りで起きた出来事をもとにして「○○ちいちゃん」と題名をつけよう。</p>	<p>○第3場面の出来事や様子を捉える。 ○第4場面の出来事や様子を捉える。 ○第1場面から第4場面で、「ちいちゃん」の周りから失われていったものをまとめる。</p>	<p>◇気持ちや行動に線を引き、登場人物の気持ちの移り変わりが分かるようする。</p>
	<p>⑥登場人物の気持ちについて叙述を基に捉え、これまでの場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、自分の考えをもつことができる。</p>	<p>「ちいちゃん」の気持ちがどのように変わっていったかを想像しよう。</p>	<p>○第1場面から第3場面までの「ちいちゃん」の気持ちの変化を確かめる。 ○第4場面の出来事を捉え、「ちいちゃん」の気持ちを想像する。</p>	<p>★【思・判・表①】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p>
	<p>⑦第5場面の役割について他の場面との関わりに着目して捉え、考えたことを伝え合うことができる。</p>	<p>T: 第5場面には、題名をつけることができですか。</p>	<p>★第5場面の役割を、他の場面との関わりに着目して捉えている。</p>	
	<p>C: できません。なぜかというと、ちいちゃんが死んでしまった時から何十年後の様子が書いてあるからです。</p>	<p>(発言・行動)</p>		
	<p>第5場面を読んで、その役割を考え、話し合おう。</p>	<p>★【思・判・表①】捉えたことを基に自分の考えをもち、友達と伝え合っている。</p>		
	<p>○第5場面を音読し、内容を捉える。</p>	<p>(発言・記述)</p>		
<p>○第5場面があるのとないのとではどう違うかを考え、話し合う。</p>				

	<p>⑧文章を読んで理解したことに基づいて考えをもち、適した言葉を選んで、感想を書き表すことができる。</p>	<p>心に強く残ったことを、理由をはっきりさせて文章にまとめよう。</p> <p>○まとめ方を確かめ、感じていることとその理由をまとめて、下書きする。</p>	<p>◇書き方の例を提示して、自分の考えが伝わるように書かせる。</p> <p>★【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をまとめようとしている。</p> <p>★【知識・技能】】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・記述)</p>
	<p>⑨文章を読んで理解したことに基づいて考えをもち、適した言葉を選んで、感想を書き表すことができる。</p>	<p>心に強く残ったことを、理由をはっきりさせて文章にまとめよう。</p> <p>○まとめ方を確かめ、感じていることとその理由をまとめて、下書きを清書する。</p>	<p>★【思・判・表】】</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。</p> <p>★【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をまとめようとしている。</p>
第三次	<p>⑩文章を読んで「心に強く残ったこと」を共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。</p>	<p>文章を読み合い、気づいたことを伝え合おう。</p> <p>○文章を読み合い、似ているところや違うところを中心に、考えたことを伝え合う。</p> <p>○友達の文章を読んで考えが変わったところを伝え合う。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>★感じたことを共有して、一人一人の感じ方の違いに気づき、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>(観察・発言・記述)</p> <p>★単元の学習を振り返り、今後の読書に生かそうとしている。</p> <p>(記述・観察)</p>

8 本時の学習 (3/10)

(1) ねらい

○二つの場面を読んで登場人物の行動や気持ちを捉え、それらを比べることによって、共通点や相違点を見つけることができる。

(2) 展開

時間	○学習活動 T : 教師の発問 C : 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★【評価】(方法)
導入	<p>1. 第2時の学習計画を提示して、本時の学習課題を確認する。【3分】</p> <p>2. 本時の学習のめあてを確かめる。 T : 「かけおくりを何回していますか？」 C : 「2回している。」 T : 「かけおくりをしているのは何場面ですか？」 C : 「1場面と4場面です。」</p> <p>めあて 二つの「かけおくり」を比べて、同じところやちがうところを見つけよう。</p>	<p>◇学習計画を掲示しておく。</p>
展開	<p>3. 二つのかけおくりの比べる4観点(時・場所・登場人物・会話文と前後の文)を確認し、共通点・相違点をまとめための学習方法を選ぶ。【5分】</p> <p>T : 「今日は、1場面と4場面の2つのかけおくりを比べるけど、最後のゴールの感想を書くために比べていくよ。」 T : 「どの方法でまとめますか？」 T : 「Aのワークシートは、1場面と4場面の文章が縦に並んでおり、見やすいです。」「Bのワークシートは、時・登場人物などの項目ごとに整理しやすいもので、今までにも使っていたものです。」「Cのワークシートは、真ん中の丸に2つの場面の時・登場人物などの同じところを見つけて書いて、両側の丸に2つの場面の時・登場人物などを見つけて、違うところを書きます。これは、同じところが真ん中で重なってあり見やすいです。」「自分のやり方でノートにまとめてもいいです。」 T : 「第1場面と第4場面で時を表す言葉は何と書かれてありますか。」「それぞれのワークシートに書き込みましょう。」 C : 「第1場面が「出征する前の日」で第4場面が「夏の初めのある朝」です。」 T : 「学び方ハンドサインを見てください。」「まとめる際に、一人でする・友達とする・先生とするの3つの中から選んでください。」</p> <p>4. 二つの「かけおくり」の様子を比べながら読み、共通点や相違点をまとめ。【15分】</p> <p>T : 「二つの「かけおくり」の様子の同じところや違うところを見つけましょう。」</p>	<p>◇テレビを使用してワークシートを紹介し、自分にまとめ方を選択するようする。</p> <p>(※A～Dのワークシート 8, 9ページ参照) A : 第1場面と第4場面のみ書かれたワークシート B : 項目が書ける表 C : 共通点と相違点が書けるベン図 D : ノートにまとめる ◇ワークシートに書き込めない場合は、ノートに書くように伝える。 ◇それぞれのワークシートの使い方を児童と共に確認しながら行う。</p> <p>◇「学び方ハンドサイン」で学習状況を把握する。 (10ページ参照)</p> <p>◇必要に応じて、ヒントのあるワークシートを渡す。</p> <p>◇早く課題が終わった児童に、第1場面・第4場面のかけおくりに題名をつけるように声掛けをする。</p>

	<p>5. 二つの「かげおくり」について考えたことを近くの3人組で交流する。【5分】 T:「二つの「かげおくり」を比べることで、どのようなことに気が付きましたか。」</p> <p>6. 二つの「かげおくり」について考えたことを全体に発表する。【15分】 T:「二つのかげおくりを比べて、考えたことを発表してください。」 C:『4場面では、「青い空からふってきました」とあるので、お空にいる家族がちいちゃんに話しかけていると思います。』 C:『4場面では、「一つのかげぼうし」が「くつきりと白いかげが四つ」とあり、かげぼうしが四つに増えていると思います。』</p>	<p>★二つの場面について、登場人物の行動や気持ちを、叙述を基に大まかに捉えている。【知・技①】(発言・記述)</p> <p>★二つの場面を比べ、共通点や相違点を捉えている。(発言・記述)</p> <p>◇なぜ作者がその題名にしたのか、自分の考えを理由を含めて発表させるようにする。</p>
まとめ	<p>7. 学習の振り返りを書く。【2分】 T:次の時間は二つの「かげおくり」の間にどのような出来事があったのかに注目して考えてみましょう。</p>	◇学習計画に注目させる。

(3) 評価の基準

Aの児童の学びの姿	Bの児童の学びの姿	Bの基準に高めるための手立て・支援
<ul style="list-style-type: none"> 二つのかげおくりの共通点や相違点を見つけてワークシートにまとめている。 まとめたことを基にして題名をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つのかげおくりの共通点や相違点を見つけてワークシートにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や相違点が見つけられない。↓注目する文章にサイドラインが引いてあるワークシートを用意し、そのサイドラインを手掛かりにして共通点や相違点を考えられるようにする。

(4) 板書計画 (11ページ参照)

(5) 資料

本時で児童が選ぶワークシートとそのメリット

		メリット
A	全文シートから必要な場面だけに絞ったワークシート	一場面と四場面が縦に並んでるので、見やすい。
B	登場人物や人数、様子など項目ごとにまとめる表	観点項目が記載されており、整理がしやすい。 既習で行っているワークシートであり、まとめやすい。
C	同じところや違うところを整理するベン図	共通のものが視覚的に分かりやすい。
D	思考を整理するためにノートにまとめる	自分でどのように書くか考えて、自由にまとめることができる。

児童が使用するワークシート（本時）

A

次の日、お父さんは、白いたすきをまかでらなめにかけ、日の丸のはたに送られ、列車にのりました。
「体の衰ったお父さんまで、本当に行かなければならぬんて。」
お母さんはがむかへんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。
ちいちゃんなど、ちやんばは、かけおくりをして遊ぶようになります。
したが、ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足を閉いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。
けれど、この町の空にも、しよういんだんばくんだんひこうました。この町の空にも、しよういんだんばくんだんひこうしが、とんでもくるようになりました。そうで、広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。

「ちいちゃん」とお兄ちゃんも、いっしょに數えました。
「おの」「おの」の動詞をいっしょに、白い四つのかげぼうしが、すうっと空に
上りました。
「すう」と
「お兄ちゃんが言いました。
「すう」と
「ちいちゃん」が言いました。
「今日の配達員真だなあ。」
と、お父さんは言いました。
「大きな配達員真だこと。」
と、お母さんが言いました。

「父さんや母さんが子どものとき、よく遊んだものさ。」「お、今、みんなでやつてみましょうよ。」「お母さんはがんばらうと、お兄ちゃんをにして、四人は手をつなぎました。そして、みんなで、かけぼうしに目を落としました。「まばたきまちち、だめよ。」と、お母さんが注意しました。「まばたきしないよ。」「ひとう、ふたあつ、みいつ。」「お父さんが教えてだしました。」「ようつ、いつうつ、むうつ。」「お母さんの声もかきなりました。」「なあつ、やあつ、こののうつ。」

「かげおりつで、なあに。」
と、もいちやんもたずねました。
「十、數える間、かげぼうしをじて見つめるのさ。十、と言つた
ら、空を見上げる。すると、かげぼうしがそつくり空にうつって見え
る。」

お出でになる前日、お父さんは、いらっしゃるお父さん、お兄ちゃん、お母さんをつれで、先祖のはまわりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおりのよくできそうな空だなあ。」

「えつ、かげおくり。」

「お兄ちゃんがさきかえしました。」

第一場面

第四場面

名前（

1

ちいちゃんのかげおくり

名前（
）

が顔に当たつて、目がさめました。

明るい光が顔に当たつて、目がさめました。

「かざおくゆ」つて遊びをちやんと教えてくれたのは、お父さ

B

C

			時	登場人物	
					第一場面
					第四場面

第四場面

第一場面

ちいちやんのかげおくり
名前)

感想の書き方 「まとめ方の例」
(読み聞かせ 「かわいそうなぞう」、第1時、第8時で使用)

- ・物語の中の言葉や場面をくわしく書く。
- ・登場人物の行動や会話、気持ち
- ・登場人物やまわりの様子のうつりかわりなど

その理由は、

〈物語のどこからそう感じるのであるかを、くわしく書く。〉

・つらい

・悲しい

・温かい

など

〈自分が感じていることを、みじかい言葉で表す。〉

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、

氣持ちになりました。

② まとめ方のれい

「言葉のたから箱」
165 ページ

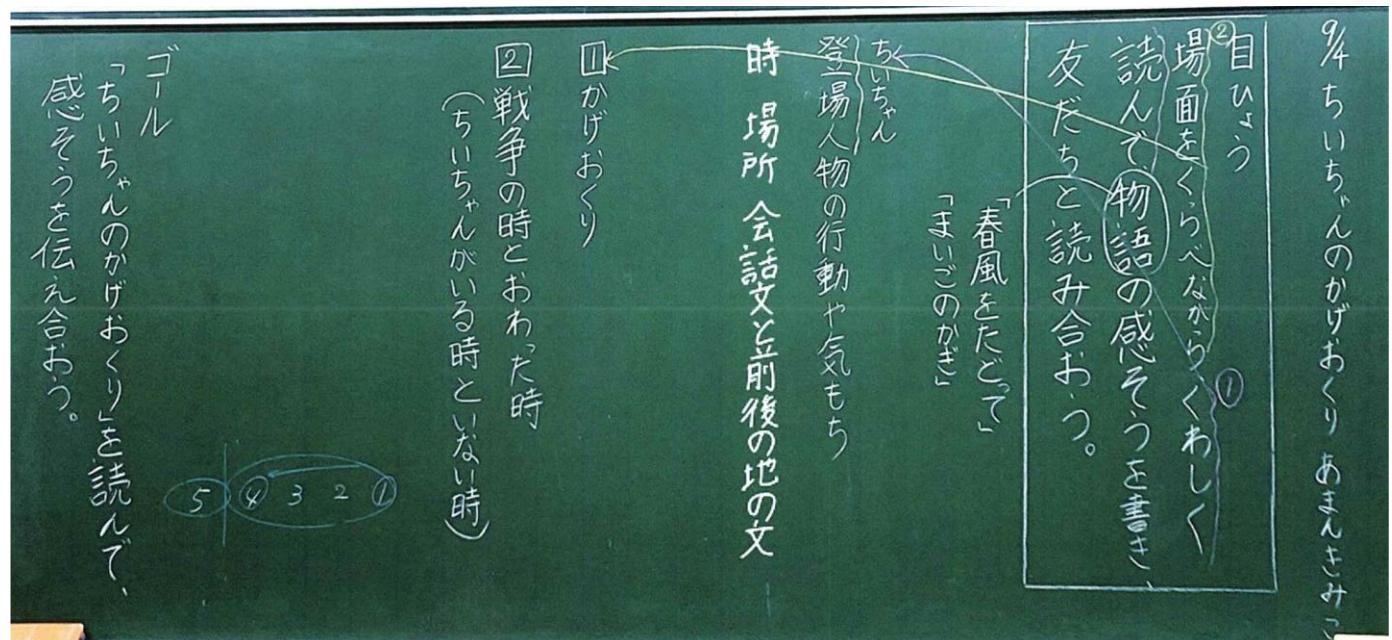
「学び方ハンドサイン」

まなびかた
ハンドサイン

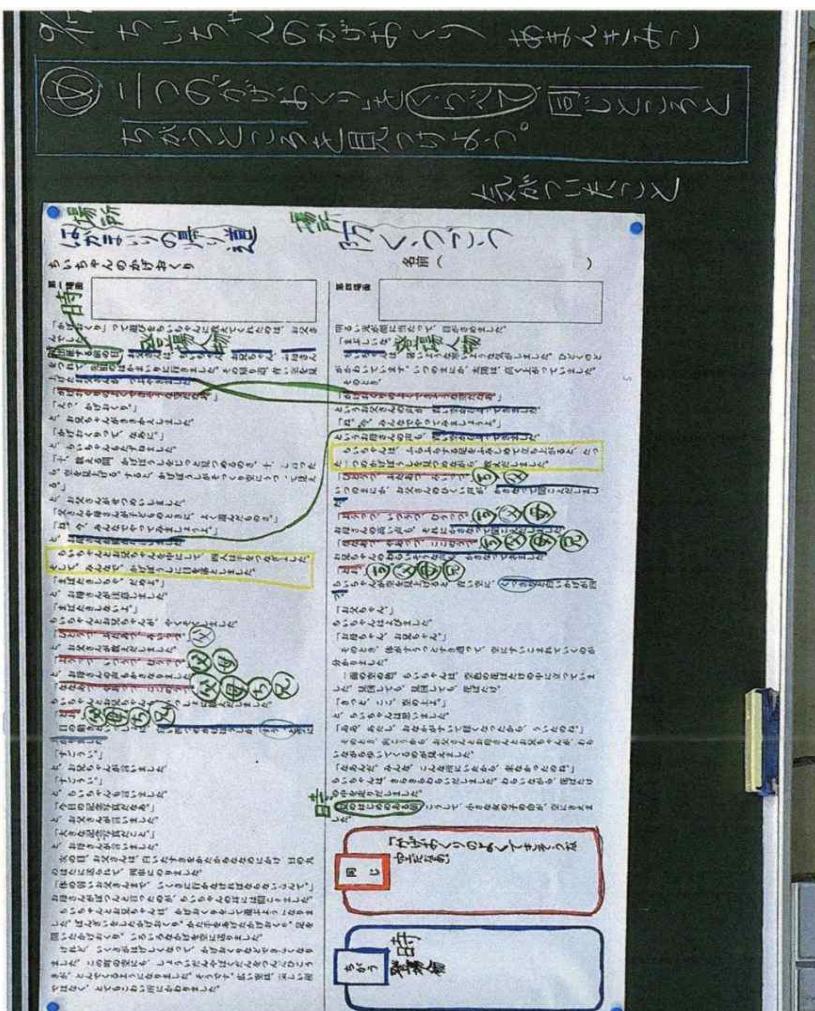


グー先生と
チョキ友だちと
パー1人で

第2時 学習計画 板書



本時 板書計画



時
登場人物
場所
会話文と前後の文

一場面	四場面
場所 はがきのりのり道	ほつかいの 空色の花畠の中
会話文と前後の文	お父さんとお母さん
家族	お父さんとお母さん
かわいがえり	ちからめん

☆ここからは協議会後に記入をお願いします☆

9 研究協議会より

(1) ワークシートについて

自分に合ったワークシートを使う経験を積み重ねることで、自己調整学習につながった。見ているワークシートが違うと、児童の気づきが共有されなかつた。一つ一つのワークシートで児童がどのようなことに困るかという想定は行っていたが、想定よりも困っている児童は多くいた。ベン図のワークシートは、量の多い文章から書きだすことに時間がかかるてしまい、登場人物の行動・気持ちへ注目することができなくなってしまう。

10 分科会の課題（テーマ）の手立てに対する振り返りと児童の姿

(1) 主体的に学習するための学習計画の工夫

成果

単元の初めに教科書の「見通しをもとう」を児童とともに読むことで、児童はこの単元の最終的な目標が分かって学習できるようになった。

また、学習計画を児童とともに作成し、教室に掲示することで児童は次の時間に行なうことをイメージして本時の授業の学習に取り組むことができた。教師も毎時間授業の始めと終わりに、児童とともに学習計画を見て確認ができ、教師も児童も主体的に授業に取り組むことができた。

学び方の工夫

ワークシートを自分で選び、自分に合ったワークシートを使っていく経験を積み重ねることで、自己調整につながつた。

自力解決する際の学習形態として、学び方ハンドサインで児童が示すことで、どのように学ぶかを教師側が把握することができた。児童も友達と話し合いながら学ぶことで、友達の意見を聞きながら学習できた。また、友達とともに学ぶことで、自分の考えに自信をもつことができた。教師側も、児童の学習状況をその場でみとることができた。

感想をまとめるための工夫

教科書の「まとめ方のれい」を基本とし、感想の書き方のモデル文を提示することで、児童は書き方が分かるようになった。また、まとめ方の感想を2回書き、繰り返し経験を重ねることで、自分の考えが表現できるようになった。

(2) 課題 (MSゴシック 12pt)

学び方の工夫

本時では、一人ひとり使用するワークシートが違い、全体共有の際に板書では14場面の拡大したものを貼っていて、児童が黒板を見ているものと違うワークシートを使用している児童は、せっかくの気づきが共有されなかつた。

ベン図のワークシートは、児童の書く量が増えて負担が大きかつた。